

ひょうたん島通信

大槌発! 第16回

岩手県大槌町の大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センターのすぐ目の前に、蓬莱島という小さな島があります。井上さしの人形劇「ひょっこりひょうたん島」のモデルともされるこの島は、「ひょうたん島」の愛称で大槌町の人々に親しまれてきました。ひょうたん島から大槌町の復興、そして地域とともに復旧に向けて歩む沿岸センターの様子をお届けします。

まず貝より始めた ～大槌湾の岩礁生態系研究～

早川 淳 大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター生物資源再生分野 助教

私は昨年12月に大槌の国際沿岸海洋研究センターに着任しまして、エゾアワビやキタムラサキウニなどの水産重要種を含む、岩礁の海底に生きる動物の研究をしています。

着任が決まった際には、水産系の人間として「水産業の復興に役立つ研究をしなければ」と強く思うと同時に「えらい遠い場所で研究することになったが大丈夫だろうか?」と不安も感じていました。というのも、それまで8年近く、黒潮域である神奈川県三浦半島で岩礁生態系の調査・研究をしていたため、おそらく黒潮域とは生物相が大きく異なる北の親潮域にある大槌に対応できるか心配していたからです。

アワビやウニなどの成長・生き残りを調べるうえで、他の生物との関わり合いが非常に重要なのです。しかし、どんな場所にどんな底生動物がいるかという基礎的な情報は沿岸の岩礁でも、意外とわかっていません。数ミリの小さな動物であればなおさらです。

私はそういった小さな底生の動物、特に貝類を研究対象としているのですが、

数ミリ程度の微小貝にはそれで“大人”の種類もあれば、“子ども”の段階にある種類もあり、それらの種を判別することは貝類の専門家でもなかなか難しいものです。

前述のとおり、親潮海域の貝類を私はほとんど扱ったことがなかったため、基礎中の基礎となる貝類の種を見わける手法を一から組み立て直す必要がありました。そんなわけで、おっかなびっくりしながら、大槌湾の岩礁域から採集してきた微小貝を見始めたわけです。

さぞかし異なる種類の貝であふれているのであろうと当初は思っていたのですが、ありがたいことにその心配は杞憂となりました。大槌湾の沿岸岩礁域には多様な貝類が生息しています。もちろん、南の黒潮域と種の構成は異なるのですが、両海域に共通して分布する種もいること、似たような環境には黒潮域に生息するものと同じ分類グループの貝類が生息していることがわかりました。また、微小貝のなかには、これまで分布域が房総半島以南とされていた種も含まれていました。これらの理由を解明するためには、これ

から長期的に生物相をモニタリングしていく必要があります。また、それらの貝類とアワビやウニの子どもの関係もこれから詳細に調べなければなりません。

とまれ、大槌湾の小さな貝たちを見ていると、それらの存在を通じて、これまで研究してきた三浦半島の海とこれから研究をしていく大槌湾の海は、同じ海としてつながっているのを感じます。数ミリ程度の彼らにとっても両海域は決して“遠い”場所ではないように、1メートル半強の私にとっても遠い場所ではなかったことをうれしく思っています。



大槌湾の岩礁域から採集された微小貝

ぴーちゃん日記

EXCITING!! “大槌鮭まつり”の開幕だ!!

来たる平成25年12月1日の日曜日、大槌川河川敷特設会場にて「それ」は行われる。そう、それとは!“大槌鮭まつり”のことだ!! この2年間は震災の影響からか豊漁ではなかったため、鮭がいっぱい帰ってくることを願って「鮭帰願祭」を行ってきましたが、今年は漁業関係者や町役場職員のご尽力のおかげで「大槌鮭まつり」が開催されます。大物ゲストのコンサートや来場の皆様への鮭汁のお振る舞い等々イベントは多々あれど、やはり目玉は“鮭のつかみどり”でし

よう! 県内広しと言えど、川に入って放流された鮭をつかみ取りする、こんなワクワクするような体験が出来るのは大槌町にしかありません。他じゃ味わえない! これまで体験したことのない興奮がここにはあるっ!!

ぜひこの興奮を多くの方々にも味わっていただきたいと思います。参加費は無料です。

そのためにも宿泊は「三陸花ホテルはまぎく」がおすすめ。元浪板観光ホテルが2年半の逆境を乗り越えていよいよ再

オープンしました。オーシャンフロントからの眺めや朝日は最高ですよ!



大槌町役場から広報用に使ったつかみどりの写真。今年もたくさんとれるといいな～